

2022年11月29日発行

22-48号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**私とは**

工学者であり小説家・随筆家の森博嗣さんが、KKベストセラーズのwebメディアに「静かに生きて考える」という連載を書いておられます。第17回「言葉を覚えて知ったつもりになる」というタイトルで、ご自分の考え方と他の人の考え方が違うことが書いてありました。

森さんご自身は、子どものころから、固有名詞が記憶できなくて、物事は、ぼんやりとしたイメージで覚えるそうです。地名は覚えられないけれど、その場所の絵は描けるということです。奥さんは、固有名詞で覚える人なので、お菓子なら、それを売っている店の名前やお菓子の名前を覚えているそうですが、森さんは、名前は憶えていなくても、店がどの方角にあるのか、そのお菓子の包装はどうだったかを覚えているそうです。奥さんはイラストレーターなので、絵を描くことができるのですが、現物を見ないと描けず、とても写実的な絵を描かれるそうですが、森さんは、見て描いても、見ないで描いても、ほぼ同じ絵で、必ずデフォルメした絵になるそうです。

別の例として、「７は孤独な数字」というフレーズが、ある小説で登場するそうです。それを読んだ多くの人は「７は孤独な数字」という言葉は覚えていても、その理由は忘れていることが多いだろうと言われます。それは、「７」と「孤独」という言葉だけをリンクさせて記憶にとどめていて、その理由などの細かい部分は、情報を減らして脳にインプットするために消去しているからだそうです。そのように、カラスという鳥を知っている人は、「黒い鳥」＝「カラス」と記憶していますが、実際に絵を描いてみると、黒い色を塗らずにカラスだと分かるように描ける人は少ないでしょう。つまり、言葉で知っているつもりでも、本当は知っていないということです。

一般的に抽象的なことより、具体的なものが求められるので、人に説明したり、主張するとき、具体的でなければならないと言われます。しかし、森さんが言われるのには、写真はピントを合わせると、まわりがぼける。そのように、見たいものだけにフォーカスすることは、その対象がどんな環境にあって、周囲とどう関係するのか、別の視点からはどう見えるのか、という数々の情報を消し去ると言われます。事象を客観的にとらえるには、ぼんやりと全体を感じることが大切だということです。自分を離れ、いろいろな立場から物事を考えるからだということです。そのようにしてこそ、相手の立場になって考えることもできるということです。（11月28日BESTTIMES＜言葉を覚えて知ったつもりになる。【森博嗣】連載「静かに生きて考える」第17回＞より）

なにかを見るとき、知っているつもりにならず、他の人のことも考えたり、俯瞰して見るようにということです。それは、人間しかできないことだからと森さんは言われています。しかし、どんなに自分から離れたところから全体を見ることができても、そこにいる「自分」から逃れることはできません。また、自分を自分で直接見ることは、人間には難しいことです。その事実を忘れて、自分の考えこそ正しいと思って生きているのがほとんどです。正しい、正しくないということの前に、自分を自分で見るのではなく、まったく他の視点から見ることをしてみませんか。人間がどんな存在なのか、その事実から見るとき、自分が言葉だけで知っていた「私」という存在は、実はこんな存在だったのだと分かり、真実を見つけることができるでしょう。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください